

第2次岡山県教育振興基本計画案 計画期間に取り組む施策の基本的方向

1 魅力ある学校づくりの推進

- (1) 子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備
- (2) 不登校問題への対応
- (3) 教師の教える技術の向上等
- (4) 就学前教育の充実等
- (5) 活力ある小・中学校づくり
- (6) 高等学校段階における教育の充実
- (7) 特別支援教育の推進
- (8) 特色ある私立学校教育の支援
- (9) 大学等との連携
- (10) 子どもたちの安全の確保

2 学びのチャレンジ精神の育成

- (1) 子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり
- (2) 国際化に対応した教育の推進
- (3) 科学技術教育の推進

3 家庭・地域の教育力の向上

- (1) 家庭の教育力を高めることによる、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着
- (2) 地域住民の参画による学校教育支援、家庭教育支援等の取組と推進
- (3) キャリア教育、職業教育の推進

4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成

- (1) 道徳教育の充実による規範意識の確立
- (2) いじめや暴力行為等への対策の推進
- (3) インターネット等青少年を取り巻く問題への対応
- (4) 郷土愛の醸成
- (5) より良い社会づくりに参画する人材の育成
- (6) 健やかな体の育成
- (7) 人権教育の推進

5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興

- (1) 生涯学習活動の推進
- (2) 文化創造活動の振興と文化財の保存・活用
- (3) 生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりの推進

平成28年度 重点的な取組

子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備

○暴力行為、学級崩壊、授業エスケープは改善傾向にある。
●暴力行為は全国と比べて依然高く、授業エスケープは目標に達していない。



いじめや暴力行為等への対策の推進

・落ち着いた学級づくりのための、心理検査を活用した学級状況の把握（未然防止）**新**
・問題行動が見え始めた学校への早期からの支援を行う集中指導員の派遣（早期支援）**新**【警察0B3名、教員0B3名】
・学校警察連絡室との連携（重点的支援）

不登校問題への対応

○専門家の活用等により、中・高等学校の出現率は減少。
●小学校の出現率は、全国と比べて依然として高い。また、長期欠席児童生徒は増加。



・小学校における登校支援員の配置 **拡充**【90校→100校】
・スクールカウンセラーの配置 **拡充**【小学校65校→68校】
・スクールソーシャルワーカーの配置 **拡充**【正SSW18人→19人、準SSW7人→6人】
・教育支援センター、おかやま希望学園、フリースクール等の関係機関相互の連携推進 **新**

教師の教える技術の向上等

○全国学テで、小学校は算数の基礎基本を中心に一定の成果。
●中学校は、全国との差が縮小したが、依然課題が大きい。
●教員の子どもと向き合う時間の確保が必要。



子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり

・授業改革推進リーダー・推進員の配置 **拡充**【5チーム→6チーム】
・放課後等を活用した補充学習支援の中学校での強化 **拡充**【中学校50校→120校】
・家庭学習のスタンダードの普及・活用
・教師業務アシスタントの配置 **拡充**【35校→50校】
・運動部活動支援員の配置 **新**【26校】

活力ある小・中学校づくり

●少子化に対応した活力ある学校づくりが必要。



・小規模校の存続や小中一貫教育の導入等を検討・実施するに当たって、市町村が行う取組を支援するモデル事業を実施 **新**【2地域】

インターネット等青少年を取り巻く問題への対応

○ルールづくりなど児童生徒の主体的活動が広がっている。
●スマホ等の所持率の上昇と低年齢化。
●家庭のルールが「ある」と答えた割合は減少。



・スマホサミットの開催や中学生スマホチャレンジ100など児童生徒の主体的な活動の促進 **新**
・教職員の指導力向上
・家庭・地域への啓発活動の促進
・ネット上のいじめ・トラブルの研究 **新**
・ネット依存対策の研究 **新**

より良い社会づくりに参画する人材の育成

●選挙権年齢の引き下げに伴い高校生の政治への関心を高める必要がある。



・主権者教育の在り方を研究・成果の普及 **新**

※ ○成果 ●課題